

291
7

2

8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03933 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9

溫知錄新書



2

目錄

新字修、内家、事	一	日標左馬入府	三	新字家系	三
功費 楠吉地	二	老津八右馬入	四	佐竹保家	四
本字之修	三	津保左馬入	五	的持源四郎	五
山本之修	四	加多右馬入	六	安島右馬入	六
公字之修	五	梅原右衛門	七	津田兵衛	七
有田郡島之修	六	津田盛物	八	平助兵衛	八
日守郡湯川之修	七	上村右大夫	九	吾津兵衛	九
日守郡重家之修	八	此方左馬入	一〇	下馬左近	一〇
宇川右京	九	日所平左馬入	一一	功上修助	一一
山本右馬	一〇	林 十六天	一二	多三右三右	一二
青志左近	一一	大田右衛門	一三	佐竹保家	一三



新字修、内家、事	一	日守郡之人士	四	新字修、内家、事	三
功費 楠吉地	二	山本右馬入	五	佐竹保家	四
本字之修	三	老津平左馬入	六	的持源四郎	五
山本之修	四	津保左馬入	七	安島右馬入	六
公字之修	五	梅原右衛門	八	津田兵衛	七
有田郡島之修	六	津田盛物	九	平助兵衛	八
日守郡湯川之修	七	上村右大夫	一〇	吾津兵衛	九
日守郡重家之修	八	此方左馬入	一一	下馬左近	一〇
宇川右京	九	日所平左馬入	一二	功上修助	一一
山本右馬	一〇	林 十六天	一三	多三右三右	一二
青志左近	一一	大田右衛門	一四	佐竹保家	一三

12.11
10.2.20

溫知録新書

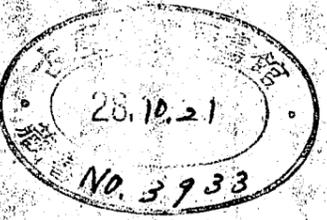


温知録云云、下、幸、温知録
録と稱す、乃、家、録、也、

中根七藏 氏寄贈

291
7
1

Handwritten notes in vertical columns, including a circular stamp with the date 28.10.21 and the number No. 3933.



小松系の居住仕り川と云はれ下りの星々の切目より西の海士
郡衣奈由良の傍有田郡の内西層邊近郷地仕り由大方山五六十石も可
有地盤の二行太同様高田郷の時、我傳を申し下知を不該領内の新不
也宛致し一向神神を不申々二行海平陸中より大軍を御掛けさせ候ふ
二行直光同直春父子と云はれ地を横官郡近郷邊退下り申す其後平陸集
の御郡若輩也といふ少の合致仕り候へ中々叶不申所詮言申し直光は名
廣新地村より有領仕り子息直春等、才大和入仰言者長御、露出三千
石以下露立り処大梅原の時石田方と露立り、守軍人仕方とあり候はれ
津路紀伊守政、奉七百石といふ有領仕り湯川丹羽と申す今は廣島に露在
二行行ケレ候し申す候立申由新申す

一湯川五右衛門と申す是の家老候し有領仕り湯川淡也申す後先子津路紀伊
守政、奉り候はれ今津路紀伊守の才大和入仰言者長御、露出三千石
千石計の取奉候仕り、振子淡也申す湯川清太夫と申す、津路紀伊守の三石
二行新地村に

一湯川吉之丞と申す東國、露出候仕り奉り候申す是と相平下候守政より七
白石計の取申す不露仕り候へ承り申す湯川和左衛門と申す、酒井隆徳守
政より白石取露仕り候へ才大和入仰言者長御、露出三千石計仕り、露立り
一丸山之計と申す、津路紀伊守の才大和入仰言者長御、露出三千石計仕り、
一平井九左衛門と申す、湯川の家より取奉り候仕り、有領仕り由是、今は須
田郷に候御掛候山、露出申す

一玉置右衛門湯川合、進出申す、湯川の家より所より、是より候申す、
二所登り六十人の御掛候

一吉田内膳と申す、是より湯川の家より取奉り候仕り、津路紀伊守と申す、
長今三所長門守政、露出申す、露在り

一湯川治部大夫、湯川の内より、是より、是より、是より、湯川と合致し
付候し海と申す、一旗より、口同申掛本要、津路紀伊守と申す、是より、是より、
と取申す、治部大夫、津路紀伊守と申す、由良の内と申す、是より、高仕露在り也

日守田舎の事

一日守和佐村大老の城之玉置守部と申す、是より、是より、是より、同郡露在り也

リ川上福井村通有田郡の内津本谷杯より地盤今換地五六十石あり
地盤の領主は神皇の御孫と仰慕す大岡格の内通仕神時方二條り
より神神申上りより本知無相違仕仕より地盤八人土内、被仰付又知
大納言長御ノ被付然り有長御神尋り其方付々の領知は何程より
よりと被仰付時凡三千五百石計之由申上りより別三千五百石換地を打
換る昔の領知三六一石にして之より一斗部中を念念存りより高野山ノ
入出家成り千中院之位持仕千中院ノ上人と申り由其以後天下二院所
吉御より長御ノ被仰付々々貴殿と紐子懸地者之内玉置は忠功の由の
目と換置の條と被仰付々々高野山ノ使者と改換玉置を降参候より玉置
有長御居候御孫々折算おれり早蓮ノ下仕又元の三千五百石より和
下院在り由を申す所の時分此書數新浪人御書より千中院子千中院
下院御孫、御書此千中院ノ被下奉仕仕り由の千中院果男子無之候由
生致の條と願ひ申す千中院ノ條申す由無事七人士の時分千中院あり
知行事不分明候り候
一 玉置改換御孫御馬と申者之條玉置用之由と申者父子玉置身御書より

數千石柄仕り者より神皇の左角之助保長今高野大寺殿、奉千石より
在り角之助弟御孫門より右同所ノ奉公仕り由知行の條は不存申す
一 玉置應八邊ノ日高野川と申所ノ領知候に於て、右大寺殿、有所置在り
一 玉置内藤助同子太郎助父子玉置家より此之條より神皇の左角大寺殿
より五百石計、承居申り承承候大寺助御書玉置書御書、此令六十人
所置り
一 柏井甚助と申者子玉置左角門同所左角門兄弟皆神皇大寺殿、奉見七角門
より七百石弟女左角門五百石より奉公仕り承り申り
右玉置一族大寺と、相所甲の由の古人より神皇の御孫今其子子
其兄弟露出奉公仕り玉置武の者大寺十二三人より神皇の御孫承り申
り
一 玉置大寺是日高野三ノ木と申所を知行仕り者より神皇の本多國幡
殿ニ三百石より居申り所不足と申書入いたし、此今は酒井積政守殿ノ五
百石より有附申り由此者親類と日高野より百石仕置在り
一 幣口御五右衛門、玉置家と、幣口源之と申者の子より神皇の御孫承り申り

か豫り二有海堂の火焼不存有田新田取村の山と申者申者申者
日伊本岡所、権系振と申者、皆白埋之族、有海堂の由、近世年中日埋
成り、山権系振と申者、皆白埋之族、有海堂の由、近世年中日埋
成り、山権系振と申者、皆白埋之族、有海堂の由、近世年中日埋

一有田郡宇治と在り、其山八左門と申者、先代より代々、録知仕居在り、
古公第内入の時、在所を立退、守人池田備中守、四百石、有田申
の由、世傳守、其山八左門と申者、其方々、権申の由、今は何方、
所知れ、不申、被官し、所、居申、其山八左門と申者、其方々、
被官し、又、其山八左門と申者、其方々、被官し、近世、三刀、
物方、小姓仕、在り、其山八左門と申者、其方々、被官し、
申、其方々、

一有田郡石垣庄、神保左五郎と申者、其方々、其山八左門と申者、
佐、丹下、神保、白埋、連、四人、家と申者、其方々、其山八左門と申者、
有海堂、其方々、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、
三年、其方々、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、
其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、

一

納言、付申、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、
由、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、其方々、
在所、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、其方々、
其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、

一海士、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、其方々、
其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、
其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、
其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、

一同、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、其方々、
其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、
其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、
其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、其方々、其山八左門と申者、

一

と申しより侍五七人居住仕候是を南方の多良三苗と申し周防西大内
系に備置しし由置り菊田に移り候と周防と大内家と下系別官為御第十
四番目の男子大内家者御孫と云々相傳致深頼朝公の御公軍功指し依り
市一門より一と周防守に任り代り周防の国守也御孫より四代孫村三男
大内次郎存持と此系康時孫持用公給ふに紀伊内路上一任内田孫川左の
地頭職に被補代り此所は居住仕候三苗の祖、由置り其後古事、伺公
一とより二の官軍方と成給り口宣等致通り今所持仕由城八九年以前
承祿年中より至り後守等次第我儘に成取来事をかたらん已にか之を退
出され給へ持り存成り由路上居地の末弟早鏡申り昔承り申り亦他國の
城申事より登りか移り石承り姓川長八と申り存居申り又有田の貴志と
云々多良三苗の所と承り申り亦此所昔中成給り以上三孫人計り下打中
登りし今守人仕候者中登り又百姓仕候所存り中登り由置り古村佐兵
右首等左名關係左取門三人は六十人致何付候
此所は御孫、孫向石所也後諸事次第致有軍功も御孫不致行也者
天保加断候所致遺御件

建武三年五月

東宮大夫右近衛中將藤原近房壽

姓川一族中

第上一族中

紀略八庄司宛

一伊豫郡の姓脊山と言者有子孫今孫、姓脊山次右取門と申り和州境御本
より北が當り高山則姓脊山より和州等、在所の内也則是を家考とす
領地は妙山の麓七ヶ村也
私日云々之初大徳寺十津川より吉野へ出津、時武家と命を請定り
防面めたり人と云々海の在り司連和氣吉野郡十津川と云々、川と言所、
子孫今も有候又所脇掛の石と言傳り有是ら宮より年々海方、使者と
往還往還の問布待合候候り此所も今も工俗待事と申傳りたり此等
へ海と云々氣遣候りし男子數十人不绝是れ凡下の身と一と云々向所
らせり引候等事たり天守也と申傳り但姓脊山へ海川同事より一と格別

三

ハ日下ノ御川等ノト相和ル申カル事所為ノ元ニ也而不令味下仕

一當時若宮在月子孫ノ事為子方安宮在ノノ可古書亦ノ其所ノ神社奉院等
古寺ノ書等ノ一古見ノ不申カル事安宮在ハ鴨山ニ據テ治部大夫信實ト申
一代ノ事所ノ居位仕知ニ徳永年申カレ候也ハ三系ノ一孫十川内守
一存リ余弟安宮在寺持入通ト云ノ安宮在ノ末リ恒在成公ノ一孫
新在可仕唱ノ申カレ候也司ノ信實下院ト下院操方見ノ不申カ
一何部郡和田ノ在月を古書見オタル不申カ

一海士部若宮在月ノ胡方ハ在月ノ信實ト一一代ノ事書テ奉宮院家也
又及白ノ録下ノ録ハ世々ノ帝ニ無常ノ事ノ孫等ト一凡下者ハ所
稱ノ申カレ由申カレ鳥羽白河後白河ノ帝ノ時ノ中治本在日重因同次重
次若弟請教事為天若重載留代録ハ京都ノ古法由録ハ武持源義朝ト
云ノ一ノノノト云ノ事ノ交リノ事ト申カレ候ノハ男九
百有持金那五丸ノ時及白ノ録カク家ノ整事院ニ二百日重因男ノ人カ
義經ト仕ノ事セ院下三日重因開六甲重因ト一院下及重因ノ兄弟若義

徑ノ通ル事カレテ事カレテ及白ノ家は三男院本三甲次相續ト一ト今達
孫院申カレ吉野殿ノ時ハ味方ノ事所ノ軍功カ死ト相見ノ申カレ出カレ
中務トシケル事カレテ及白ノ事カレテ孫子ト同ニ申カレテ大ナリ嫡ノ事カレテ今
ノ三甲次系カレテ相見申カレテ一ト院下
一那智在月ト申カレテ那智山持入ノ事カレテ院下院行十方院一在カ
及院下院政所トシテ院下ト一申カレテ其ノ事カレテ院ト一申カレテ院ト一姓
名カレテ不申カレ

一日出ニ在月新宮ト一星以上居位仕カ子孫ト今存在カ家ハ院下院言
三宗院門出カ山奉入ノ時カ家ト来ト山ト行場持南也院持院持
初ノ院山ト申傳たり院後ノ行カト一院ト一院ト申カレテ院ト一院ト
由テ今子孫トシテ院カ一八在月ノ内ト一院ト一院ト院ト一院ト
知カ院カノ内ト院在月ト一院ト一院ト院ト一院ト院ト一院ト
トトノ内ト一院ト一院ト一院ト一院ト一院ト一院ト一院ト一院ト
事カレテ八在月ト一院ト一院ト一院ト一院ト一院ト一院ト一院ト一院ト

右の外、左の諸節より編名曰く、
左の節、長持の御用と申す、
三極、
由、
一、
御大務、
川、
一、
御大務、
川、
一、

共二山、
注、

一、
御大務、
川、
一、
御大務、
川、
一、

須田領之事

豊臣秀吉公天正十三年紀伊平岡以後所之領之立致置以了郡八人
士と稱たり者共し

是七段多く一坊餘成を傳承り申外通

- 一 知行 山口庄内大夫 赤澤房山也廿五段元和一寺、共し并給
- 一 知行 和佐羊右衛門 赤澤元佐五段元廿十段位、新給一様神官一様、右
- 一 知行 津 惣右衛門 海士新時神主平名天井清
元加の一様元子平松、右并給
- 一 知行 湯淺 善兵衛 兄湯浅左近大岡の弟近時三千石
善兵衛、右田郡湯浅位元右田所
- 一 知行 津 守 弟ハ情字ノ社内右田所
- 一 知行 白檀 主馬 同取し時ハ知行才徳方候
付立候、申給候
- 一 知行 津 佐直 右田所、右田所、右田所

坊者中申より報末寺外海の爲士の様、錢、一向如、左宮海入申候
是皆名宗郡海士郡那智郡より小石松の者共し孫也と申候一々

熊野権持性三苗上傳

一 鈴本権本寺守と稱す御代より下今至り権持寺護士官也、日本紀曰皇行天
皇重而南方焉神也征給時三輪ヶ崎之某地山ノ軍立し彼天皇御降と稱す
也、移されし日之有政持権を以奉神告也、下ニ臨時皇孫也、人あり右
と千石分命と稱す御代を奉り神告を奉給。依り御軍大ニ利と稱給自是
悪人至く皇命奉降南方大ニ治つ天皇御感降不設命に此を給種類と号く
是日ハ氏姓の姓あり命ハ三子有一を權本ニと稱本三ヶ山子并と稱す是者
天皇日如武尊と号す無生尊ハ新時権持の叶大成権本下檀を常日所傳
勅宣の時ハ鈴を以奉告と云々 其後政を遂り并給り一奉傳と云功を以
三子ニ奉告と成り亦候所し料ハ鯨魚を奉傳候し其牙と一して是魚腸也後
世に子孫と一し彼と成りしと詔ありしあり

依り權本元と姓字并家甲身外無降士の家ハ紋付ハ魚腸の紋を撰
す蓋年々、凡ハ皆魚腸を所承り所也行極と魚腸と心得達人ハ所と
いハ鈴本の家ハな多く権持の丸と撰是は權持氏ノ孫所也右事國ハ
鈴本ハ其丸と紋と在事國ハ其白の鈴本在りり金宗鈴本次郎十良
傳昌一ハ鈴本の姓專取國ハ其と承候

一 今御命の牛皇明神と云ふは熊野人の天神也爾三箇の神也
一 建祚命の加茂氏社神也今御命は建祚の兄也熊野の八咫鳥は別建祚命の弟
也

与井能木根木の云持此蓋轉と云くやし

一 有田郡境村池永の家と申は数代村長に任仕代々帝之熊野山神幸と所
持領りし往來の村人の池永の家を祖と云ふ事益々明かしく申傳は
可上先祖と答候と富山を祖守使四倍高瀬の子より所望の由一經以重
し申候事益々明かしく申傳は可上先祖と答候と富山を祖守使四倍高瀬の子より所望の由一經以重
し及申候事益々明かしく申傳は可上先祖と答候と富山を祖守使四倍高瀬の子より所望の由一經以重

池永 立徳

正徳二年三月
立徳嫡子流四郎信を以て出百五拾石以下

源家綱公代 天明元年迄百三十年之成

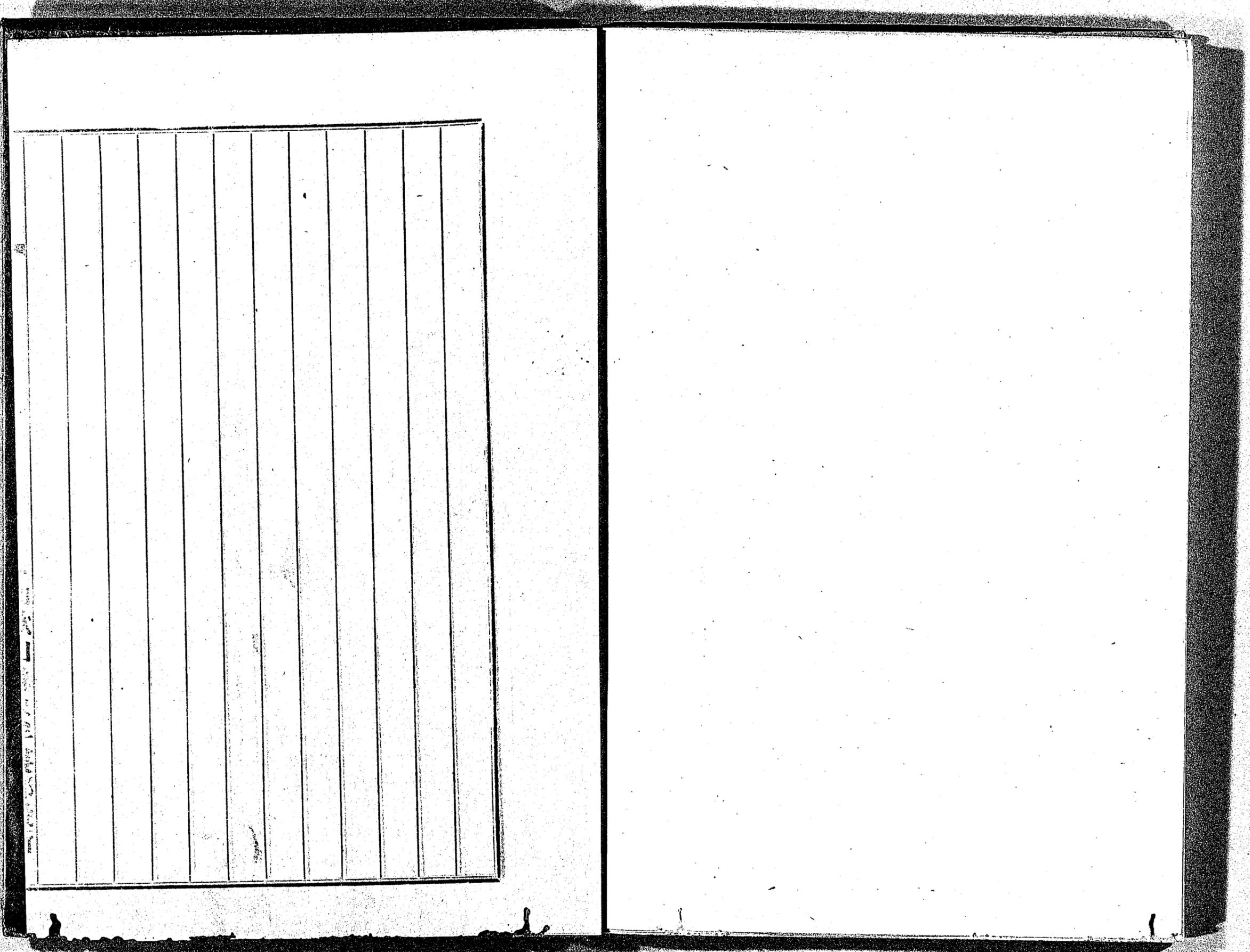
右共書者三傳字藩中神谷云為御本寫之畢

于時弘化三年御本寫之
井ノマ、ソウワ、エ、ハ、レ、カ、ク、キ、ト、コ、ロ、ニ、有、之、ル

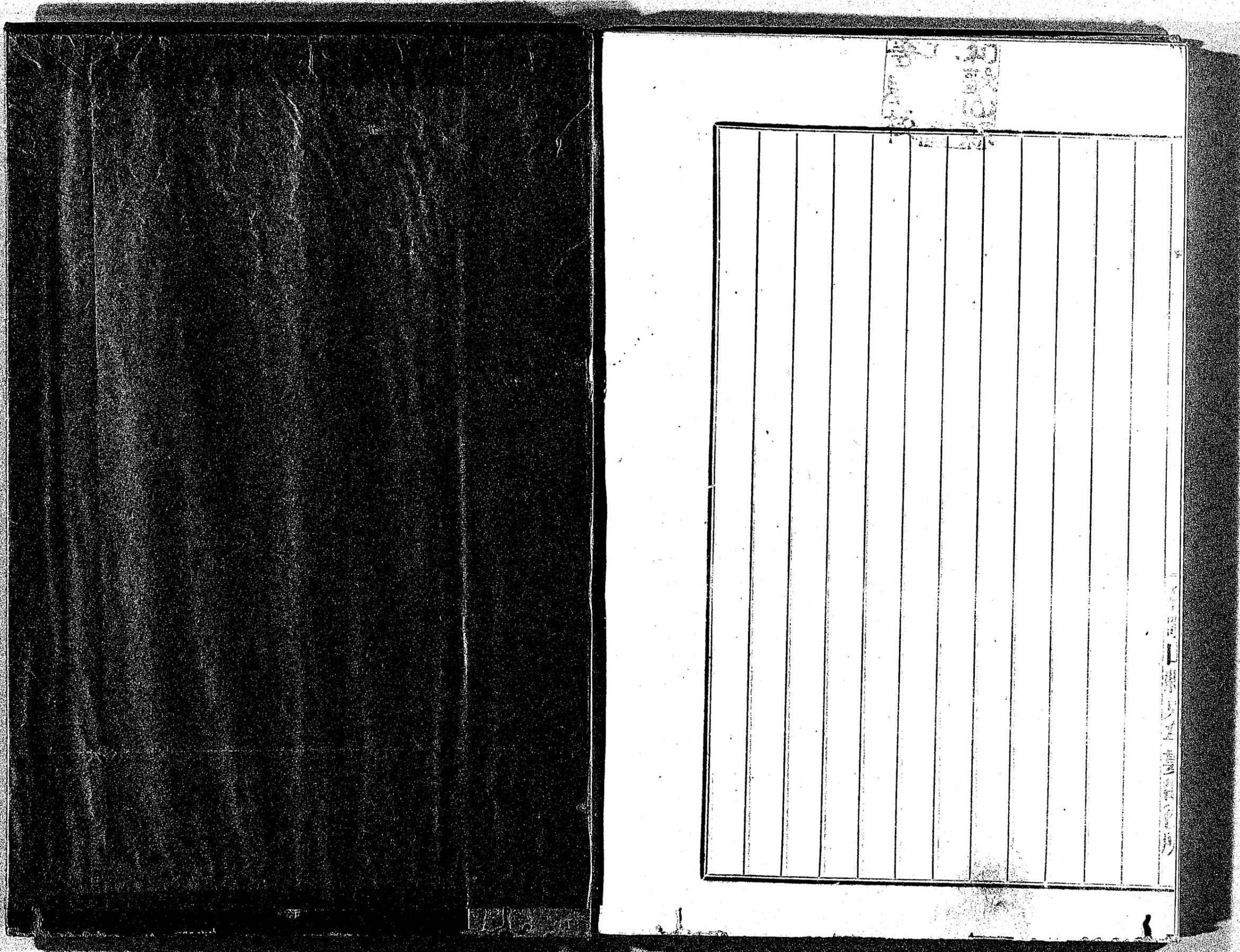
昭和十五年元管當日是日常柳氏和歌山縣境村所ニ入千セシ古書
本ヲ送附候事セラル二月十一、二両日カ、リ、テ、寫、了

宇井 詠水

昭和十五年五月宇井詠水氏ヨリ寫取テ傳付ヤラレ月十四日ヨリ三日
寫下レル事候口又事書中、御本時、テ、製紙具等ニキニヤ、紙、墨、等、
其、月、紙、ノ、真、意、一、テ、紙、高、ヲ、探、レ、廻、リ、二、條、ノ、紙、屋、ニ、テ、
儀、カ、ニ、候、レ、ル、ヲ、察、見、シ、御、本、ノ、紙、ノ、後、紙、紙、ナシ
京都市上京区茶屋新町二九番 中根 詠水

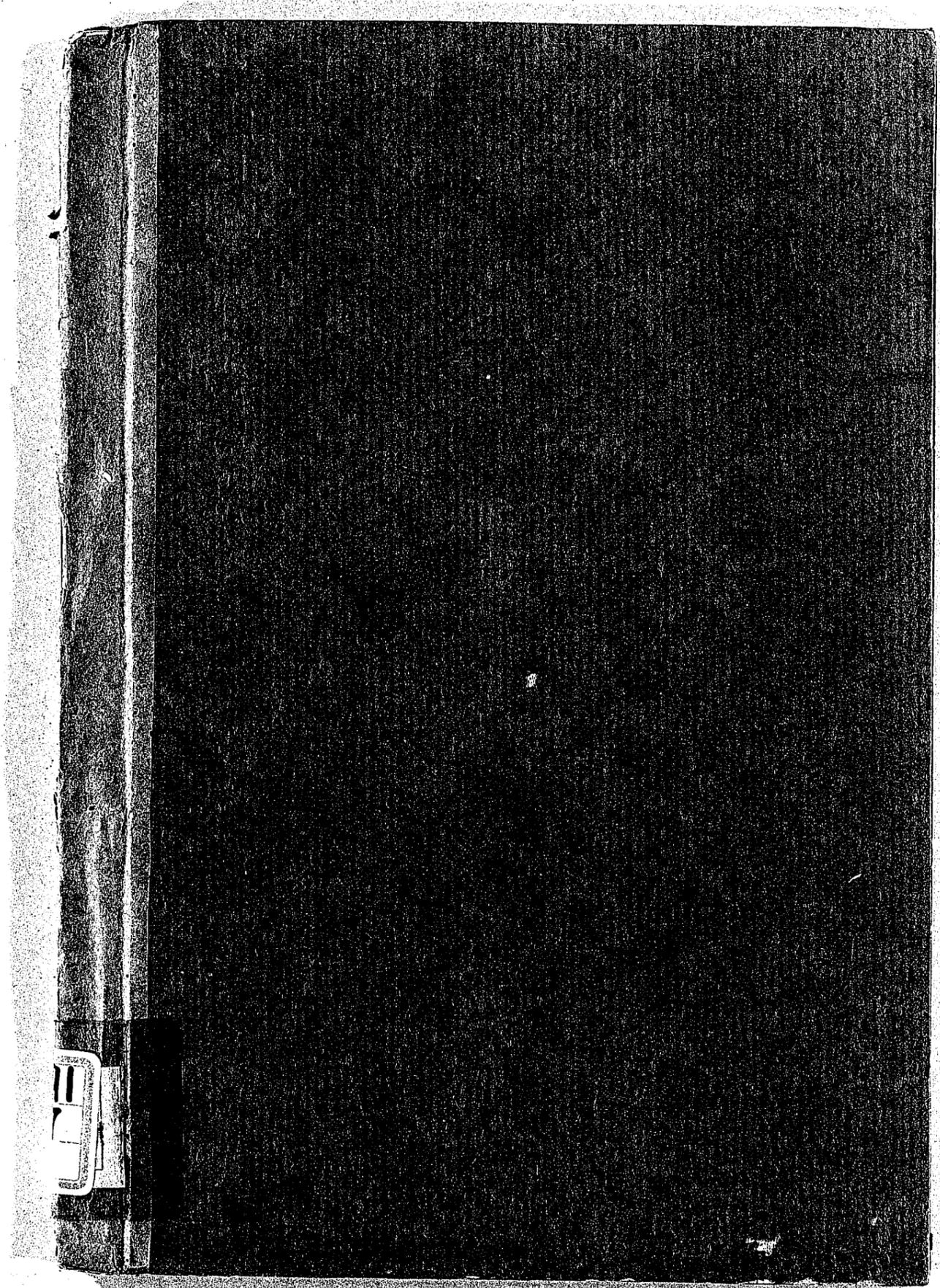


8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03933 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9



30
10
10

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10



8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03933 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9